

丹波黒井の家



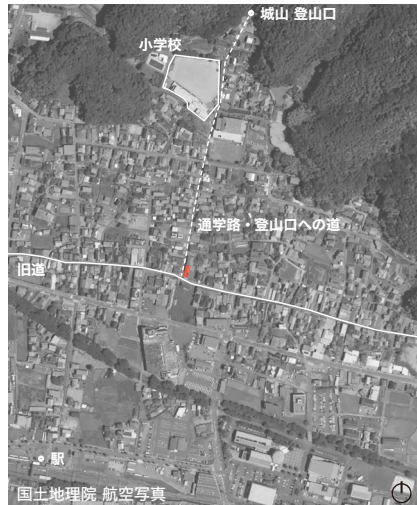
通りに対して閉じた西側



街に開いた南側

敷地とその周辺について

敷地は、兵庫県丹波市にあり、かつて商店が建ち並んでいた旧道沿いの角地である。旧道沿いは、商店の廃業や建物の老朽化に伴う建て替えを機に店舗併用住宅から専用住宅に用途が変わり、駐車場、その奥に閉じた住宅が建つ事例が散見される。敷地の南の旧道や西にある道路は小学校へ続く道で、平日は児童の行き来、週末はクラブ活動の送迎車など年間を通して交通量が多い。また、最寄り駅から敷地北側に位置する「城山」登山口へのルート上でもあり、曜日・季節を問わず人流がある。



敷地の南側にある閉じた住宅が散見される旧道



敷地の西側を通学する児童たち

【通りを開いた豊かな空間を潜ませている旧家】

今も旧道沿いには、掃き出し窓があり、かつては商店として街に開かれた空間での賑わいを彷彿とさせる旧家がいくつか見られる。しかし、現在は正面の掃き出し窓はカーテンやシャッターで覆われ、「暮らし」が見えづらくなっている。



【通りに対して閉じた住宅】

現代の専用住宅の多くは、プライベートを確保することに重きを置く。そのため、通り沿いに高い柵や塀を設けていたり、玄関から通りまで距離があったりと、街との接点を断つものが多い。



設計趣旨

家族4人が暮らす住宅であり、家族のプライベートな空間を確保しつつ、街の歴史や周辺環境を建築の一要素として取り入れる計画とした。

【エリア視点からの設計】

児童や登山客の往来がある西側は閉じた立面とする一方で、かつて商店並んでいた南側立面は、掃き出し窓の玄関により、駐車場を玄関・リビングと一体的に利用できるセカンドリビングとすることで、街に開かれていた場所であるという歴史を踏襲した。

【更新されていく建築】

近い将来夫婦2人になった時、転用や転貸も想定し、住宅に手を加えるハードルを下げるために柱梁は全て現しとし、電気設備を1階の箱樋の中に露出配線とすることで、電気工事士の施主が自ら更新できる納まりとしている。日本から、アメリカ、インドと移り住んできた家族の住まいに対する寛容なふるまいが、旧道に対して閉じた専用住宅の在り方を再考するきっかけになることを期待している。

建物の概要

建物種類：戸建て
床面積：124.22㎡
構造：木造2階建て

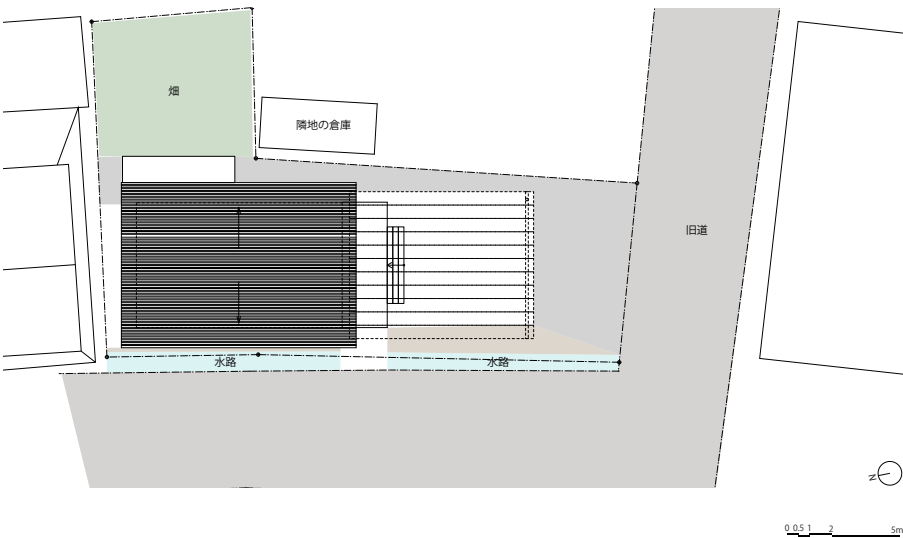
地域材の活用

柱・梁：兵庫県産使用

平面計画について

平面は、15坪の床を2層重ねたシンプルな構成で、1階に水回り
とLDK、2階に個室が配置されている。

15坪の床は、1グリッド（＝構造の単位）2,275mm×2,730mm
の合計8グリッドで構成し、1グリッドは、浴室・キッチン・玄
関だと少し広く（＝ちょっとブカブカ）、ダイニング・リビング・
個室だと少し狭い（＝ちょっとキツキツである）ため、設えがグリッ
ドを日常的に横断することになり、それによって平面が硬直する
ことが避けられると考えた。



敷地図兼配置図

